

盛岡市議会・滝沢村議会懇談会概要書

1 日 時 平成14年9月4日(水)
午後3時30分から午後5時3分(会議時間1時間33分)

2 場 所 ホテルニューカリーナ

3 出席者

(1) 盛岡市議会

議 長	山 本 武 司 君	広域行政問題懇話会会長	高 橋 金 兵 衛 君
広域行政問題懇話会副会長	北 田 正 夫 君	委 員	堀 合 正 民 君
委 員	菅 野 正 君	委 員	伊 藤 俊 光 君
委 員	工 藤 由 春 君	委 員	本 宮 秀 孝 君
委 員	細 川 光 正 君	委 員	庄 子 春 治 君
委 員	青 木 道 雄 君	委 員	浅 沼 信 一 君
事務局長	立 花 勇 司 君		

(2) 滝沢村議会

議 長	柳 村 典 秀 君	議 員	川 原 清 君
議 員	鎌 田 忍 君	議 員	沼 崎 照 夫 君
議 員	西 村 繁 君	議 員	山 谷 仁 君
議 員	佐々木 剛 君	議 員	武 田 猛 見 君
議 員	阿 部 正 喜 君	議 員	武 田 俊 和 君
事務局長	大谷地 政 光 君		

4 事務局職員

事務局次長	阿 部 光 雄 君	議事課長	阿 部 信 一 君
議事課調査係長	中 村 俊 行 君	議事課書記	加 藤 俊 男 君

5 盛岡市当局

企画部長	藤 井 禧 勝 君	財政部長	藤 代 英 彦 君
総務部次長	岩 舘 仁 君		

6 懇談会の概要

初めに立花盛岡市議会事務局長の進行によって懇談会を開会し、山本議長及び柳村議長からのあいさつの後、当局出席者の自己紹介が行われた。

次に、立花事務局長から懇談に入るに当たり、高橋会長が進行を務める旨が諮られ、了承された。

この後、高橋会長から広域行政問題懇話会における今までの協議経過について、次のとおり説明がなされた。

- ・滝沢村議会との第1回目の懇談会以降、雫石町議会、玉山村議会、矢巾町議会、紫波町議会と個別に共通課題について懇談会を実施。
- ・ことし3月に設置された滝沢村議会広域行政問題研究会から呼びかけをいただき本日2回目の懇談会の開催となった。
- ・きょうは先月公表された盛岡市の中期財政見通し、10年を経過した都南村との合併の現状等について盛岡市側から説明し、そのことについて意見交換をしていただきたい。

以上の説明の後、盛岡市中期財政見通しについては藤代財政部長から、合併後の都南地区の現状については北田広域行政問題懇話会副会長から、それぞれ別添資料に基き説明があり、その後意見交換となった。

◎高橋・市会長 合併10年後の経過について、北田副会長個人のお話をいただいたが企画部長の方から何か補足説明は。

◎藤井企画部長 現段階ではないが、御質問等があればお答えしたい。

◎高橋・市会長 財政部長と北田副会長からお話があった。それから冒頭、滝沢の柳村議長から皆様に最近実施された合併に関するアンケート調査の結果の概要等も説明いただきながら結果について資料も提示しているので、皆様方からこの3つのことを中心に、あるいはこれ以外でも結構だが、忌憚のない自由闊達な御意見・御質問等を御発言いただければと考えているのでよろしくお願ひしたい。

今の説明に対して、何か質問は。

◎（滝沢村議員） 都南村との合併建設計画について資料のお話をしていただいたが、もう少し詳しく知りたいと思う。一番最初のページの5項目の整備率等が数字で表れているが、もう少し具体的に都市基盤の整備で何がポイントだったのかということと、2番目の生活環境の整備、3番目の産業の振興というのも何が進んだのか。

それから4番目の住民福祉の向上、これは半分近くまで落ち込んでいるというか進んでいないと、その辺についての内容。5番目の教育文化の向上についても。その辺具体的にお願いしたい。

◎藤井企画部長 まず都市基盤の整備の関係、これは152%ということで大幅にふえている。主な内容として幹線道路の整備の関係、これは西見前永井線の改良等で15億の予定が17億位になっている。それからもう一つは土地区画整理事業が大幅にふえている。これは37億4,900万位のものだが、これが82億ということで大幅増加の原因になっている。

生活環境の整備の関係だが、これは先ほどお話のあった上水道の整備、これが当初15

億3,000万ほど予定していたが、これが33億を超える額の投資になっている。上水道だけの額で言うと、当初予定した額の216%という割合を示している。

産業の振興だが、これでは農業生産基盤整備で県営ほ場整備事業の関係があり、これが5億が10億ほどの整備になった。それから農業集落排水事業等、いわゆる農村生活環境整備の関係だが、この辺が30億という当初の建設計画の額が67億を超える額となったというのが大きなところである。

それから4の住民福祉の向上、これは大分進捗率が低くなっている。その原因の一つだが、これは一つは高齢者福祉施設ということで老人福祉センターをつくることになっていた。これは2億ちょっとだが、これについては建設用地について意見の一本化が非常におくれたということが一つある。これについては平成13年度のローリングで実施計画を立てており、現在では15年度に着手を予定しているという状況である。それからもう一つ大きいものがあり雇用労働センター建設事業、勤労者福祉施設という性格のものだが、これについては現在事業内容とか財源、国の方の補助の関係もあるので、そういうものについて現在見直しを検討しているものである。これは当初の額としては8億を超える額が予定されている。大きくはこの2件かなと思っている。

教育文化の向上というところが74%ということで落ちているが、これの中の大きいのは、一つは永井小学校の整備、校舎を増築するという計画だったが、これについては児童数が減少になっているということで増築を見送っており、これが額が2億幾らである。

それからもう一つは見前南の地区公民館、これが14億位の建設費を予定していたが、これについては後期実施計画の16年度着手の予定で整理をしているという状況である。

細かく言うとたくさんあるが、大きなところで言えばただ今のようなところである。

◎(滝沢村議員) 先ほど北田副会長から反省点として2点あったが、その中に合併後の様子を見届けるという住民組織が必要ではなかったかということだった。そこでそれに関連してただ今の合併建設計画だが、これを見て、大まかな説明はなされたが、こういう実態について、もとの都南地区の住民の方々の、こういう結果に対する率直な意見とか反省点とか要望とか満足度とか、そういう調査はされたのか。

具体的に言うと、住民の方々の率直な現在時点における合併して良かった、あるいはこういうところが不十分であると、そのような声があったならば集約してほしい。

◎北田・市副会長 合併後の調査、例えばアンケートとかは部分的にはあると思うが全体としてはなかった。であるので我々議員としてそういうことは言えないかもしれないが、実は合併をすると旧都南の議員20名中現在5名いるが、4分の1に減るといった実態があったわけで我々議会議員が一生懸命やらざるを得ないという反省点に立って、住民参加のもとにもう少しいろいろ満10年を迎えて感じたことを率直に申し上げた次第である。

やはりそういう見届ける組織というか、委員会になるのか審議会になるのか。現実問題として村長・助役等、三役、五役と言われる方々が一線から外れてしまうわけで、しかも当時担当した職員もだんだん10年間のうちに一線からいなくなると、こういう実態があっ

たわけで、そういう実態を踏まえて私の所感を申し述べた次第である。

◎藤井企画部長　まず、住民のアンケート調査のような形ではやっていない。ただ都南地区に各地区ごとに懇談会ということで市長以下、部長が全員出席して合併ばかりではなく地域要望とかそういうものを聞く会を開いている。それ以外で個別事項で行政懇談会という形で地元の要望を伺うというような形で都南地区にかなり入っている。その中でいろいろな要望は出ている。

それからもう一つは先ほど北田副会長の方から計画を確認する、見届ける組織というお話があったが、合併特例法が変わり、例えば合併したところではその地域のことを議論する地域審議会という制度ができており、これは話し合いの中でつくるつくらないという話になると思うが、今はそういう組織も当然予定に入っているものと現時点では考えている。

◎（滝沢村議員）　合併するときサービスは高いほうに負担は低いほうにというように合併論議が進められるわけだが、具体的に全国の例として例えば学童保育クラブの正規職員の方が合併したらば全国の例として学童保育クラブの正規職員が嘱託の方に回されたとか、公民館の使用料とかそういう公共料金が無料だったのに、合併したら有料にさせられたとか、国民健康保険、保育料、学校給食費が値上げされたとかそういうところがよくあるし、役場が支所みたいな形になると思うが、もちろん職員が減るわけで、あまりにも貧弱でさっぱり支所に行っても役に立たないとか、合併する前はいいことを言われるが、合併したらそういう実態があると。

例えば都南村が盛岡と合併して、10年になるわけだが、そういう実例がもしあって、それを今言うともまだそんなことを言ってるの、もう10年たったじゃないかと、そういうふうな形でせつかくの住民の声が約束だから結局そういう約束で住民が納得して合併に賛成したんだけど10年たってもやることをやらないと、そうすると今どきそんなことを言うなと言われるところもあるそうだが、やはりそういう約束事を信じて合併に賛成した都南の住民がたくさんいたと思うが、実例として約束はしたがさっぱり進んでいないというところがあるならばぜひお聞きしたい。

◎岩館総務部次長　職員配置と組織関係のことになるが、合併時点の申し合わせとか基本的な考え方としては、行政サービスの低下や混乱を来さないことがまず一つあった。それから建設計画が円滑に推進できるような機構にするということ。それから効率的な行政運営が図れる機構にするということ。それから住民の声を適切に行政に反映することができるような機構にするということ。この4つを基本として組織を考えたものである。

当初、合併直後の平成4年度だが、そこは行政事務が軌道に乗るまでの間は管理計画部門を除いて窓口事業実施部門、施設の維持管理部門は従前のままということで平成4年度は残したものである。そのときの組織として総務課以下133名8課1室の体制だった。合併後、時を経るにつれ重複するような事務があったり、同じ様な事務で効率的ではないということもあり、平成5年度には6課1室に組織を減少し、現在は総合支所ということで

課という名称のものは置いてないという状況である。

職員については例えば保育所については配置的には臨時職員だったものを盛岡市の方の基準に合わせて正職員に置き換えたりと、そういったような水準の高いほうにといった調整は行った。

◎藤井企画部長 当初合併する際には合併協定書とか建設計画とかいろいろ話し合いをして決めていくわけだが、行政の基本線としてサービスは高い方、負担は低い方という形で都南のときには整理をした。ただ、議論をする中ですべてがそうなるということではなくて、話し合いの中でのものによっては必ずしもそうではないものも整備の仕方としてはあったというふうに思っている。

ただ基本的にはサービスは高い方、負担は低い方というのが当初の意向である。ただ例えば下水道料金とか水道料金とかもそうだが10年たっている間には値上げということも経営状況に応じて当然あった。

税金のようなものについては法律に基づいて合併した年と、それからの3年間は低くしているが、その後は1本化するとか、国保税は盛岡の方を落として安くしたとか、個々で言うといろいろな事例はある。それはそれぞれの法律の範疇でやっているというものである。

◎(盛岡市委員) 今の件について、基本的には今企画部長が話したように、調整をしていただき、例えば敬老祝い金、こういうものは盛岡市の方が非常に充実をしていたが、旧都南村の方にも適用をしていただいた。それから障害者の医療費助成事業、これは逆に都南の方が4級障害者までという水準で高かったが、これは旧市内も全部4級まで実施していただくというような形でそれぞれ調整が行われたというのは事実である。

ただ、それは統一した市という形の中で敬老祝い金についてはその後支給対象が大幅に見直しをされて対象が減ったと。同時に一定期間を過ぎて都南村当時行われていた地区ごとの敬老会、これは4地区で敬老会を行っていたが、これに対する助成は平成9年で打ち切りになった。その結果町内でどうなったかと言うと、その経費を各地区福祉推進会で持つということで、私どもの町内会ではその福祉推進会への上納金のためにその福祉推進会の会費が1戸あたり10倍に値上げをして、それを生み出すという努力をして地域にあったそういうものは残そうという形で地域で頑張っただけでそういう敬老会のようなものは残している。

総合支所の体制だが今総務部次長から話があったように、最初の年は8課1室体制と、次の年に5課、その次の年に3課になって、平成6年か7年で課がなくなったが、それによってやはり従来都南村時代行っていた仕掛けと盛岡市で行っていた仕掛けが、同じ事業でも違う仕掛けでやっていることが結構あった。例えば健康診断の事業、盛岡は非常に進んでおり、各自が係りつけのお医者さんを持とうという掛け声のもとに、健康診断は自ら医療機関を選んでそこに行って受けなさいという仕掛けになっていた。都南村の時代はぜひ皆さんでこの日は健康診断ですよという集団健康診断方式を取っていた。したがって都

南村時代はその日の健康診断となると、地域に派遣された保健推進員さんが町内会と協力し合っ、申し込みを取るといような努力をしながら健康診断の受診者を年々ふやすという努力がされてきたが、盛岡になり個別検診というものが導入されることに伴い、そのお知らせと受診申し込みがそれぞれが独自に行うという仕掛けになり、残念ながら受診者は合併してから激減した。合併する直前は約3,500人いた受診者が、4年後には1,900人。一時期そういうふうになってしまった。その後、都南総合支所に保健課がなくなり、都南保健センターにも保健婦さんが常駐しなくなり、都南地域の受診者がどの位になったかという統計がとれなくなった。盛岡全体としてはそういう中でも健診事業を前進しようという市全体としての努力の中で徐々に伸びてはきているようだが、方式が変わるといことにより若干その傾向が出てきたといのは事実としてある。

それから都南の住民の中でやはり大きな問題として常に出されるのは除雪サービスである。基本的に市は都南村時代の除雪方式や除雪路線はそのまま引き継いでやっていたいっている。合併したからといって除雪の路線を減らしたとか、そういうことではないが、なぜかこれはどこの町内とか住民に言っても、合併によつての後退感といのがあるといのが数多くの方から実際に言われる声としてはあるといのは事実である。申し上げたように盛岡市が除雪路線を減らしたわけではない。私は自治体の規模の大きさによつてきめこまかさといの点での困難性が、大きい自治体によつてあるのかなと理解している。

◎（盛岡市委員） 今都南出身の議員の方からも出たが、逆に旧市内の方から言わせてもらうと、合併建設計画600億といの非常に大きい額だが、これでどうしても合併を成功させるといのことでそちらを先行させるといのことで、当時は南が高く北が低いといのことで、我々は上堂方面といのことで北方面のいろんなものがストップがかかったよな状況があつた。北部連合でもつくるかなんていの話もあつた。

合併をすると、水準をあわせるためにどこかが我慢をしないといけないといのことが、どうしても出てくると思ふ。具体的に盛岡の場合も都南でやっていた都南ケーブルテレビ、これはかなり入っているわけだが、盛岡の場合は岩手ケーブルテレビか、そういうことどころいいた高い方にあわせるといのことになる一本化をしてケーブルテレビを旧市内にも入れるべきだといのことでずっと議論しているが、これがなかなか進んでいない。

それから中学校の学校給食だが、都南の場合は共同調理場で中学校全部やっていると、盛岡はそういいたのがないといのことで高い方なのでそれに合わせるといのことでいろ議会でやってきたが、いまだかつてそういいたの実施の方向性はあるが具体的になつていないと。ある程度合併建設計画に基づくそういいたの計画を立てると、それを先行させるといのことでどうしてもどこかに矛盾は出てくると思ふ。

そういいたの意味では旧盛岡の今、もうそういう声はなくなつたが逆に出ているとすれば除雪なんかは都南のよなやってほしいといの声は盛岡市内から出ているといのことで、ある程度そこが切磋琢磨して一つの目標に向かつていけば、若干時間はかかるだろうが、そういいたの問題は解消されるのではないかと。ただ2、3年の間は合併したどちらにしても問題点は出てくるのではないかと思つている。

◎(滝沢村議員) もう一つ伺いたい。ただ今の説明を聞いて、なるほどと思うわけだが、ここに滝沢村のアンケートがあるが住民の一部あるいは大部分か、口コミで判断資料を持っているわけである。どこから聞いたかというと、いや今都南に住んでいる住民から聞いたと。そういう話が除雪の問題一つにしても表面だけ見てそういう行政サービスの水準が落ちていないと。そういう総括的な面は捉えないで除雪が悪くなるとか、あるいは福祉バスが少なくなるとか、そういう直接自分だけに関わるような身近な問題を合併すればどうなるんだという判断材料として、都南村から聞いたと、そういうような一方的な情報がどんどん広がる。

そこでこのアンケートもそういう影響を多分に受けていると、私は個人的に解釈する。そこでそのような大事な問題、なぜこうなのか、実際こうなんだと素晴らしい成果が実際は数値的にはわかるがやはり住民感情に訴えるようなデータもこれから公開してもらいたいと思うがいかがか。

◎藤井企画部長 合併についてのいろいろな資料・データの公開ということだが、盛岡市でも広報紙で3回ほどいろいろな状況を説明している。ただ、最終的に住民の方たちが知りたいのはどの部分かということ、例えばAとBが合併した場合に、税金がどうなるのかとか手数料はどうなるのか、水道料金はどうなるのかとかという具体的な数字。いわゆる理念という部分もそうだが、そういう具体的な数字が見たいのかなど。そうすると実際にAとBというところといろいろ協議をしながらある程度の形づくりをしていかないと提示できない部分もたくさんあろうかなと思っている。

例えばAとBというところが、それぞれ特徴的な事業をやっているとするとそれを両方に広げるのか今やっているのを止めるのかというようなことを一つ一つやっていかないと具体的な住民への提示というのは難しい。今の段階では合併のメリット・デメリットと言われている部分の大きな部分では盛岡の方でも広報で出しているし、今度ビジョンという形で出しているが、それらについて合併シミュレーションのような形のものも提供したいなと考えているが、どこまで提供できるのか、どういう資料が欲しいのかというのはいろいろ検討はしている。

ちょっと答えにならないかもしれないがよろしくお願ひしたい。

◎高橋・市会長 だいたい時間も半分経過したので、今度は盛岡市議会の議員の方から滝沢村議会の議員の皆様にも聞きたいこと等があれば、それぞれの立場で結構であるので御発言をお願いしたい。

◎(盛岡市委員) 前は合併の「が」の字も出なかった状況だが、今回初めてこういう場所で話ができるということは双方にとっていいことか悪いことかあれだが、アンケート調査を見せていただき、なるほどこういうことがあるのかなと思ったのが、問5の市町村合併への関心度というのは非常に関心があるというのは38%台、ある程度関心があるというのは44%、あわせると83%ある。ところが滝沢村と盛岡市との合併となると賛成が

23.1%と。今度は関心度ではなくて必要性ということになると滝沢と盛岡との合併についてと同じような23%台ということでガタッと下がっていると。

しかし村民の方々は市町村合併への関心度というのはマスコミ報道によってつかんでいるという方がだいぶ多いと、このデータに出ているわけだが、率直に議員の方々も議会開会中に本会議とか委員会等で村当局と、この合併について広域なりで論戦は活発に行われたことはあるのか。

新聞等を見ると柳村村長は何も広域のこの近くと合併しなくてもいいんじゃないかという記事を見たことがあるが、議会の方々と当局の関係は合併協議についてどのようになっているのかお聞かせ願いたい。

◎柳村・村議長　きょう当局が参加していないので私の方からお答えするが、前回もあったし今回も合併問題を取り上げている議員さんがいる。大体議論は議員側とかみ合っていないなという印象を受けている。その一つは何かというと滝沢は今は一生涯改革に取り組んでいるよと。これを進めていけば乗り切れるのではないかというのが根底にあると思う。

そこでよく出てくるのが、改革に積極的でない自治体と一緒になれば飲み込まれてしまって今までの成果が何もなくなってしまうという話をするが、そういう話に対して議員側とすれば、では改革だけで本当に乗り切れるのかと。交付税が減らされてきたときに今後我慢を強いるだけで本当に住民は満足するんだろうかというあたりが、やはり議員が考えているところである。そこでまだ切実な大変だという思いが住民には伝わっていないのではないかというのが、首長と住民との間で議員がもたえているところではないかと思う。

きょうはぜひ皆さんお一人ずつ本当に滝沢と合併したいのかと、何を望んでいるのかと。例えば先ほど来、都南と合併して約600億を超えたが、当然そういう投資ができる時代ではないということをお互いの議員ともわかっている。そういう中で合併の特例債だと滝沢と盛岡の2つだけだと300億の事業費ができるというように言われている。ただそうすると滝沢だけで300億を使えるのか、当然盛岡もそれをにらんで盛岡の発展の思いをそれに込めているのかと。そういった話も聞ければときょうは思っているのでよろしく願いたい。

◎（盛岡市委員）　端的に滝沢と合併したいのかと、議長さんの話があったが、私は議会同士で合併しよう、したくないという話以上に議員が住民代表であれば同じ住民代表であればどうなんだということだと思う。このままでいいのかどうか。逆に盛岡から言えば除雪の問題が非常に満足度が低い。先ほど話があったが都南村の時代は業者の委託プラス町内会のやりたい方に手を挙げてもらい、その人が小型の除雪機を買って町内の隅々まで除雪をするというシステムをつくっていた。盛岡と合併してそれを落とすわけにはいかんということで、盛岡の場合は全部委託であり個人委託はもうやめているが、やっているわけである。

そういうわけでどうしても本当の意味で住民が何を考えているのかということが一つあ

と思う。例えば私のところは合併の時に都南の副議長であった高橋さん、合併の調印してすぐ亡くなったが、私のところがちょうど盛岡と都南の間である。水路でもなければ道路でもないところで都南と盛岡が入り組んでおり、私が道路をつくっても都南村分が残る。水路をつくっても都南村分が残る。農免道路も歩道つけても都南村分は歩道はつけられない。結局住民は我々の議員は何をやっていると、副議長でもあるしということもあったが。

だからそういうものを解決する一つの手だてが合併だろうと思うがどうかと。そういうものも根底にあると思う。端くれの政治をやっていると、ともすれば、盛岡とすれば中核市を狙いたいからぜひ合併してほしいと、こう言いたいわけである。単純明快に言えばだが。そしてなるべく地方の自治体がまさに国が描いているように地方の力でなんとかやっけてける体制をつくるとすればそれしかないだろうと、こう思う。

逆にいって滝沢さんがうちの方は細々とやりますからといえば、あえて無理して合併云々という必要はないと。問題はお互いの盛岡近郊は大半が依存しているわけだからこれらをもう少し効率的に、いわゆる盛岡以外の方々のうちの方にも高等学校一つ位回してよこさないかというようなときに、あえて今盛岡にある学校が古くなってどこかに移転したいなというときに、素直な気持ちで移転できるかという問題も出てくると思う、個々に限って言えば。だからそういう意味で住民と議員が密接な関係を持っていますと、そういうところから自然的には方向性とすれば合併が必要だろうと。

この前、小岩井駅のところで東京土地が開発をやっているが、その人たちも何人か高橋金兵衛副議長さんのところの学校に行っているようであるが、親御さんがつなぎ温泉に働いているからついでに子供も一緒に朝に行って帰り一緒に帰ってくるというようなことで、盛岡さんをお願いしているという話だから、この前東京土地の社長にこれほど開発やって金儲かっているんだから学校用地寄付したらいいんじゃないかと言ったら、いや寄付することは簡単ですと、村長がいいとも悪いとも言わないところに学校用地提供すると、こうは言えないと言っていた。事実かどうかはわからないが、とにかく東京土地の社長の言うことだが。

そういうこともあるので、いろんな意味でお互いが関わりはあるわけだから、それを少しでも住民の立場に立ってやった方がいいのか、やらなくてもいいのかということも議員として多少考えれば私の立場からすれば合併してもらえばありがたいことだと。

前に戻るが、合併したことによって水路改修も旧都南村分をやることができたし、歩道も取り付けることができた。住んでる人にすれば水道料金なんかは安くなったが、どうせ使った、これは払えばいいのだからと。まあ関係ないやと、下水も来たしということなわけである。ですから私たちからすれば使用料は均一でなければならぬとか、税金がどうのこうのというが、自治法上で町村は住民税は500円安かったかと思うが。これも合併の際には対象になり経過措置で乗りきろうということにしたわけである。

そういうものは私らの段階で直すことができるわけだが、住民の不便をどのように認識しながら、くどいようだが盛岡と都南のはざまにいた人間とすればやはりこれは解消するべきであろうということで、近くの住民のいわゆる旧都南の人たちは賛成した経緯もある。まあ選挙のときは別だが。

そういうことで住民感情とすれば道路1本隔てて後ろと前で全然違うということはどういうことかと、500円の違いでこれほど違うということはどういうことかと、こういう視点で議員が詰め寄られた場合に、少し待てというわけにはいかないだろうと。そうすれば自然的にじゃあ村長さん、いつもあんたやられてるんだが、あんた合併で議員辞めて村長に立候補して当選したんだから早く表明しろと、藤村村長さんは親戚であったが。だからそういうことも勝手な口も聞けた立場であったから、3期当選してようやく合併という経緯だったわけで、私はできるだけ忌憚のなくと言えばやはり盛岡もどうしてもやはり山が多いわけで、できれば人口集積ということを見ると平坦地がたくさんある所が望ましいと。これはあくまでも議員の立場で言うが。ただ問題はあと1万幾らで中核市の形成を担うときは、どうしても30万は超したいと。今矢巾町過ぎて紫波町まで盛岡は流れており、盛岡は地価が高くて人口がとどまらないということがあるので、そういうことで合併はお願いできればしたいものだなと、こう思っている。

◎（盛岡市委員） 滝沢さんのアンケートを見ると、だいぶ盛岡は嫌われているような結果が出ているが、実は浅沼委員もおっしゃったが、盛岡には谷地上地区というのがあり、御存じだと思うが。あそこの地域は33部落で両側が滝沢村。すっかり囲まれている。いわゆるあの方々が言うには盛岡の盲腸みたいなものだ。あってもなくてもいいだろうと。そういうような言い方をされている方もいる。

その中で行政面で学校に行くにも盛岡の市道を通って村道に入っていくと。それで母屋が盛岡だけでも、小屋が滝沢にあると。そういった複雑怪奇な地域もあるわけだが、将来的には合併は避けて通れないだろうと考えているので、その中で首長さんがおっしゃったんだろうが、皆さんもどうお考えなのかお聞きしたいが、単独市制を敷くという考えでいくのか、盛岡は嫌だけれどもほかのほうであればいいという考えをお持ちなのかお伺いしたい。

◎川原・村会長 政治的な話になるとなかなか私も言いにくい部分があるが、3年位前だったか、滝沢は単独市制はできませんよと、ですから合併を考えたらどうですかと一般質問したことがあったが、そのときの答弁は単独市制できるという答弁だった。私はつまり無理なことを言うなと思っていたが、それから1週間もしないうちに県議会と同じような質問が出て、滝沢は単独市制できないという答弁だった。

私は中身を知っていたから、あのとき県に行って調べてあるいは新聞社に行って調べて、資料を持っての発言だったんだが、そういうことがあり、単独市制は無理だろうと私は思っているし、まだそういう夢を抱いている人がいる。

だから単独市制というものはできないということをきちっとしなければならないと思っている。ですから単独市制は無理だと、あとはこのままずっと村で行くか、合併するかはわからない。町にはなれる、滝沢町には。でも町村というのは看板書き換えるだけで2億位かかり、あとは交付税も何も一緒。何も金をかけて町制を敷くことはない。

その辺のところを詰めた議論を我々もしていかなければならないと思っているが、議会

はなかなかそこまで突っ込んだ議論になっていない。こうなんだと言ってもはぐらかした答弁をしてそこで終わっているというのが実態である。もっともっとこれから緊迫してくるから、緊迫した議論をしていかなければならないと個人的に思っている。

いま 27 次の地方制度調査会では、自立できる町村は第 1 級町村制にする、できないところは第 2 級町村制にするというような話が真剣に出されている。昔北海道で開拓時代にやられたことがいま議論になっているようである。そうすると、私の考えだが滝沢の場合は将来的にあと 10 年過ぎると自立できないのではないかと、いまのままでは財政面含めて自立できないのではないかと思っている。そうすれば何の権限もない第 2 級町村になって首長も指名制、任命制となる。議員は選挙に出るが条例もつくる権限も与えられない。予算と決算を審議するだけの議員となってしまう可能性があると思っている。そういう意味では警鐘を打ち鳴らしているつもりだが、当局の考えはなんとか村で生き残っていきたい、そのためには何でもするという姿勢がありありと見えているように感じている。

◎（盛岡市委員） お互いに考えていく場合に本当にきめ細やかな行政サービスができるのかなというのが一つあると思うし、2 つめは税金がどうなるのかなと。3 つめは環境問題だと思う。21 世紀は環境の時代だとよく言われるが。

ただ一つ、都南と合併した時点では国保税が盛岡が高く都南が安かった。所得割、資産割はほとんど同じだから。たしか私の記憶だと 2 ポイント位高かったわけですね。23 万のうち国保税支払っている人が盛岡で何名だったのか細かな数字は覚えていないが、圧倒的に多いほうが少ないほうにあわせたと、資金面で。当時の盛岡市の当局は大変苦労したと思う、正直に言ってウルトラ C を使ったわけである。何を使ったかという均等割と平等割を上げて、何とか納得してもらったというような経過があるが、したがって議論していく中で克服——克服というか納得していただいたものはあろうかと思う。

あるいは環境問題一つとってみても、これはやはり合併しなくてもできるものはいっぱいあると思うが、例えば下水道なんかは合併したときには、私の記憶では 29% 位だった、都南地区は。いまはその倍位進んでいるが、ただこれらについても合併建設計画の中にも一つはあるが、盛岡市も特別会計の下水道会計を見ると 600 億を超える起債があるわけで、凄く金食い虫といえはあれだが、そうした場合に住んでいる滝沢の皆さんが環境問題をどう捉えているのかということなどもできれば教えていただきたいと思うし、国保税などもたしか 500 万を超えると全国一律で 53 万円と、これは同じだと思うが、その辺なんかもお聞きしてみたいと思う。

それから議長さんから、本当に滝沢と合併したいのかと率直な意見も出たので最後に自分なりの意見を言わせてもらおうが、例えば一緒になってどうするのかといった場合に別に特例市ということで、ほとんど国とか県の権限が委譲されていると。それでは中核市になって何がくるのかと、犬と猫を中心にした保健所だなど。それだけである。

だから中核市というものにはそんなにこだわっていないし、したがって住環境は協力しあって住みよい環境をつくっていくということからすれば、別に滝沢さんのみならず意見が一致すれば合併という方向というのが、これからの新時代を生きていくためのスタイ

ルではないかと思っている。

◎（滝沢村議員） 2年位前だが盛岡の議員さんだった、名前は忘れてしまったが、合併の話になって、何で滝沢は合併しないんだと。これだけ盛岡の恩恵を受けているんだと。それを恩をあだで返すような態度だと。これは何たることだと言わんばかりの言い方をされた。どうも吸収合併のような、議員さんたちの中にはそういう気持ちが強いのかなと。我々は頭を下げてお願いしますと言わなければならないのかなと。

そういう面では人間関係というか、そういったものがどうも面白くないなという気持ちにそのときになったが、その点で何のために合併するのかとか、村と町との境の問題とかサービスの問題もあるが、次どういう方向で盛岡なり滝沢が行くのかという目標がきちんと設定されていないとあれこれの議論というのは、じゃあこっちはこっちで頑張ろうじゃないかという話になってしまうと思っている。

そういう点でそういう気持ちが皆さんにあるのかということを知りたかった。

◎（盛岡市委員） それはないと思う。私自身の考えとしては例えば大船渡と三陸町のような合併はするべきじゃないと思う。やはり住民の方々が納得した上で合併するという。私は交通問題やっているので、例えば今盛岡が進めているオムニバスタウン事業一つとってみても本来滝沢さんも関わりがある話である。バスが滝沢さんの方から出発してきているということからすれば、交通一つとってみても広域としてどのような道路をつくっていくかあるいはどうバスを回すか、それがお互いの住民のためにどう利便性が向上するかということ。

今ビジョンというものを出すが、ああいうものを議論をしてその中で将来合併したほうが皆のためになるということになれば、それはそういう気運が盛り上がった段階でやっていけばいい話で、決して私たちは合併ありきで議論しようとは思っていないし、例えば盛岡のこと一つ考えると何とか単独でやっていけるだろうと思う。

でも岩手県全体を見た場合に、この位合併の気運が高まっていればある程度避けて通れないということになれば、だとすれば盛岡広域としてそれぞれ将来盛岡と滝沢の持ち分はこうしていこう、ここを前面に出していくというふうなことをお互いに議会としても提案し合いながら議論をしていくということが将来的には合併の道につながるんじゃないか。特例法の期限にあわせてやるということであっては住民のためにならないのではないかと

◎（盛岡市委員） 都南との合併のときに経済界の方の話だったが、例えば流通センターに企業を持っている方々は盛岡市郊外という名刺で商売をされたりということもあった。

今大変心配しているのは、盛岡の人から、あるいは雫石、滝沢の方からも相談を受けるが、大学あるいは高校を卒業したけれども働く場所がないのかということと相談を受けるわけである。そういったときに私は毎日、西リサーチパークの脇を通りながら、女房を雫石の役場まで送っていくわけだが、そうするとその西リサーチパークも盛岡西となってい

るけれども、あそこが盛岡市になっていけばもっと企業が進出するのではないかという話もよく聞く。

このアンケートの中に活気がなくなるということが書かれているが、12番目であるからあまり気にしなくていいよとおっしゃるかもしれないが、そういう意味では盛岡市の欠点というのは地価が高いということである。その意味では都南と合併した時にその欠点が解消されるかといえば、ほとんど開発が進んでからの合併であったので、今度そういう面では滝沢さんと一緒になれば効果が発揮されるのではないかと。そしてまた働く場というものを確保していければ盛岡周辺含めてより活気づいていくのではないかと。そんなふうに思っている。

そういうことを考えればお互いの利益にもつながっていくのではないのかなと思いつながら、今後の経済的な活力あるいは文化的な面においてもチャグチャグ馬っこなども含めながら一緒になってやっているわけであるし、ほとんど盛岡と滝沢の文化は一体のものであるなどと思いつながら、そういう文化を生かしながら全国に発信していけるのではないかと思ったりもする。

そういう意味で一心同体のような地域ではないのかなと、私自身思っている。

◎（盛岡市委員） 合併の問題について言えば最終的には、それぞれの住民が正しい情報の上に判断して決めていくということだろうと思う。最後まで賛成反対論というものはあるかと思う。都南村の時代も住民投票をやったわけではないが、先ほど北田副会長がおっしゃったように、20年間真っ二つに割れながら議論して最後まで反対したのが私であるが、大方の賛成の中で議決になったという歴史がある。

私は反対したからといって盛岡の議会に来てどうしたかというのと、もう1回分離して都南村独立しろという主張はしたことはない。合併のときに約束した事項を実施してもらい、それから住民に不利益を及ぼさないように都南の高い水準は維持してほしいという主張をしてきたつもりである。

そこで今起きている合併議論だが、私は今の合併議論は残念ながら国が主導し3,000の自治体を1,000にすると、そしてそれを県が受けて様々な支援だと。こういう形で地域の事情あるいはその地域のやむにやまれぬ事情、こういうところから出発している合併議論ではなくて、上からの統治するための自治体の再編ということで、その議論が先行しているというのが最大の問題ではなからうかなと思っている。

盛岡の問題を見ても、何のための合併なのか。最近市はビジョンを出したが、これはこれから検討されていくことだろうと思うが、どうしても先ほど出たように交付税が減らされると、このままでは立ち行かないのだと、こういう議論の先行である。それから合併すると特例債によって支援があるのだと。この支援がある期間中にやらないと、乗りおくれるというような議論があるとするならば、これは合併そのものが目的となっているということにならざるを得ないのではないかと。こういう点から言うと、盛岡と滝沢村あるいは矢巾町との合併という議論は煮詰まっていないというのが率直な現状ではなからうかなと思う。

先ほど議長さんが交付税が減らされて、このままでは立ち行かないという心配があるということだったが、残念ながら今の政府の交付税に対する改革の方向性というのは、合併しなくてもしても交付税を減らそうということである。やはり合併すると基準財政需要額が減ることにより、地方交付税が減る。政府が今減らそうとしている交付税の削減以上に減ると。特例措置というのは急激に減ることを15年かけてゆっくりと減らしていこうと。15年たったならばその特例法はなくなるわけだから、私は交付税の特例というのは合併による効果というよりもあるいは逆に傷を癒すための15年間の特例ではないのかなと思っていて、特例債事業についても本当に必要な事業から出発するというよりも、最初から300億だと。あるいは盛岡・矢巾・滝沢3つやると440億だと、こういうことが果たして本当にあるべき姿かということになると、これは合併の必要性の論拠からいうと非常に希薄だと思っている。

問題なのは役場がなくなるということはどう見るかということではないかと思う。

先ほど除雪の例で話をしたが、除雪の路線は同じであってもやはり都南の役場から出発するのと、盛岡から出発するのでは大きな差があるというのが率直な事実だし、保健婦のいない保健センターでは本当に身近に住民のかゆいところに手が届くサービスというものは手薄になってしまうという側面が確かにある。

だから合併して首長が減り、議員が減る。このことによる効率化なんだ、財政効果なんだということを望むのか。あるいは役場というものがあってそこに政治があり行政があるという役場の役割をどう見るのかというのは非常に大きな論点ではないのかなと思っている。

私個人の意見だが、現状では積極的に合併は必要だという論は出てこない。先ほど産業の問題のお話があったが、昨今の事情は誘致企業が撤退しているという事情である。だから今開発して受け入れ態勢をつくって、きてくださいという産業政策よりも地元の内発的な産業をどう発展させていくのかということに、今本当に力を入れなければならないという点から言うと、本当にそれぞれが住民参加の中であるべき姿を模索していくというのがもっともっと必要ではなかろうかと思っている。

◎（盛岡市委員） 率直にお聞きしたい。今ここに来てアンケート結果の資料を見させていただいているが、私の見方が悪いのかこの辺でちょっとお伺いしたいが、アンケート総数が3,000名。回答数が1,100名と。3,000というのがどういう形で3,000になったのかわからないが、ちょっと足りないのではないかと。回答数が37.4%というと3分の1強ということだから、こういう中で、村内の意見が全部反映されているのかなと疑問が一つある。

回答しない3分の2弱、この方々は一体どうなんだろうかと。回答するのが嫌だというだけの話なのか、このへんをちょっと知りたいなど。全体の3,000という数そのものも理解に苦しむなどという面もあるし、3分の1強の結果だというこの資料、その辺一体どうなっているのかお聞かせ願いたい。

◎大谷地・村局長　このアンケートをする段階において前にも書いてあるとおり、グループインタビューによってそれぞれの代表を呼んで、どういうものをどういう形で聞きましょうかということをもとに最初に行った。サンプルの3,000については一応サンプルになるので、この程度がいいだろうということでやった数字で、何%という形でとったようである。

それから回答率の37.4%というのはこの種のアンケートの標準的なパーセンテージだというふうに聞いている。今おっしゃられるように答えなかった人たちの中身については残念ながら知る由もないが、関心がないとか、そういった分析については担当課の方でしている最中だが、出てきてない部分についての考え方については私の方から答えられないし、多分担当課の方でも出てこないだろうと。

おおよその目安として、合併に関する問題をいろんな形で持っていくとすればこのような質問の仕方、答えをとってどのように住民に合併についての情報提供をするかということをお互いながら、とるアンケートとしたいという趣旨からこういう形になっているということで、一応今回はこの数字だけで見てくださいという形になるかと思う。

◎柳村・村議長　世論調査なんかだとよくサンプル500とかいう中でやるわけだが、世代別とか男女別とかの方法で抽出してやったと思う。

何年前かに振興局のほうでも調査をしているはずである。そのときのサンプルはもっと少ない中でやったと思う。たしかあのときには反対が50%、賛成が40%位だったと思う。

矢巾の場合はほぼ半々という形が結果として出たと思うが、それを大幅に今合併に反対が多いというのは、私たちも本当にこれは信用できるのかなという部分が実はある。

というのは設問の方法がちょっと意図的なのところが見えるのではないかと。順々に普通に考えていけば合併反対の方にいくような形なのかなと危惧している。

資料等も渡されてのアンケートだったが、その資料自体が現時点のことであるので、例えば1人あたりの借金は27万だよ、盛岡は50万だよとか、ほかは100万を超えている町村もあるよとか、それだけ見ると滝沢は極端に少ないとか、公債比率から見ても13.7%、これは12年の数字だが、これから18年とかになれば20%を超えるというふうに言われている。

そういった今後の話ではなく現時点での資料をもとに出しているものだから、村民は非常に状況に満足しているという結果が出てしまっているのかなと。今後これがどんどん厳しくなりますよという話のときには果たしてどういう結果になるのか。と言ってもこれがもう先行してしまえば世論としてはこれになびく可能性というのは十分あるので、議員としてもなかなか合併を進めるという意見は出しにくくなってくるのかなと思う。

◎（盛岡市委員）　私は合併大賛成の立場である。それは先ほど話があったが、吸収合併とか恩恵があるからというのではない。やはり雫石・玉山・滝沢・矢巾・紫波、ここは同じ経済圏だと思う。同じ会社にそれぞれの人たちが勤めている。そういう経済圏の中で、家に帰ったときに大体同じ生活環境の中で、福祉とか恩恵が共有できているのかと。

一つは保健所行政を見ても、保健所行政は人口が足りないから県の行政機関である。水問題は全部保健所で扱えるわけである。今度の改正水道法による衛生行政の方でこれは任意組合とか、任意水道組合とか井戸水とか、全部これは保健所が扱う。市役所はなかなかタッチできない。そういう問題がある、一つの例として。

環境問題とか衛生問題というのは一番住民にとって大事な問題だと思う。アンケートを見ると現在の滝沢村の上水道の普及率が何%いつているのか、これをどういうふうにも上昇させようとしているのか。県は下水道の普及率を60%に上げたいと言っている。滝沢は今の程度の水準にいるのか。そういうものがこのアンケートには見えない。

そういうものを出し合った中で、下水道の普及率を60~70%に上げるにはこれだけの金がかかりますということを住民に知らせるべきだと思う。そうした中で皆さんの意見を聞くと。そういう生活環境の中身をもっときめ細かく住民に知らせながら、情報を公開しながら皆さんがどっちを選択するかということではないと、生活環境の整備もこれから非常に厳しくなると思う。そういう面から合併をした中で、全体の財源の中で進んでいないところを手厚くすると、一人のために全市民がとかそういうふうな基本的な地方行政の運営にいくべきだというのが私の基本的な考え方である。

そういう面から私も滝沢の方に大変お世話になっており、よく議論をするが、吸収とかそういうことではないと。一緒に地域を皆でつくろうということでの合併である。そういう合併であれば誰も文句ないと思う。そういう意味で合併協議会で議論をしようということは、これは議会の議決で合併協議会ができるわけだから、そういう議論に持っていくべきだと。そして議論してデータを出して住民に知らせて意見を聞いてと。そういうものをつくっていかないとなかなかこの話は煮詰まらないと思う。ぜひこれから、盛岡も頑張らないといけないが、皆さんと一緒に頑張る時期だと思う。そういうふうにもいつも私は思っている。

◎高橋・市会長　　今、盛岡市議会からも全員発言させていただいたが、何かこれについて滝沢さんの方からありましたらどうぞ。

◎（滝沢村議員）　直接的あるいは間接的に関わる問題だが、都南が合併したときに、結果的に大幅に議員数が削減されたと思う。その結果その地域住民にどう影響があったのか。もしあったとすればどのように克服されたのか。

もう一つ、20名の議員の方が現在5名だそうだが、その5名の議員の方に今までになかった負担があったかどうかということについて御指導願いたい。

◎北田・市副会長　行政体が大きくなったわけだから、合併以前から実は人口4万3千を抱えて当時10年前だが、議員定数が20名というのは非常に少ないと、議員をふやすべきだという議論をずっとやってきた。ただ、近い将来合併なのでふやすべきではないという議論もずっとやってきた。

盛岡と一緒に減らす議論をかなり私もしたわけだが、減らす議論は都南時代は1回

もやったことはないわけで、やはり行政体が大きくなるとやむを得ないんだと。

今、都南出身議員は5名だが、選挙を通してこうなったわけである。県内では北上市が都南の合併の1年前の平成3年に合併したわけで、その例をつぶさに見ていたわけで、やはり選挙を通してこうなった。当時議論したことの中には上手に選挙をすれば都南地区の人口からみると7名は当選するだろうと、こういう議論もあったことも事実である。

◎高橋・市会長　合併当初はそれぞれ現有議員の数で議会を構成して、任期の長いほうの任期でやったわけで、その後の選挙で定数は変わらなかったから、そこで選挙して大選挙区であるので、うまく票割をすれば7人位とれたかもしれないが、その辺で票割の問題もあっただろうから。7人位は十分とれるような形にはなっているのではないか。

◎(滝沢村議員)　住民サービスの面については変わりはないか。満足度という面でも。

◎北田・市副会長　合併して5年位は住民の方々から、合併しないほうがよかったとか合併してよかったとかの議論がずっとあったというのは事実である。

少し話が長くなるが、先ほど若干触れたが20年間10対10の議論を続けてきたわけだが、当時合併した藤村村長さんは合併をするということで村長になった。そして1回だけ昭和56年2月に選挙をし、その後2回無競争で村長になっている。

実は56年に藤村村長と一緒に私も議会に、盛岡に勤めていたわけだが、議会議員ということで。そのとき私は合併推進論者の藤村村長ではなく、合併慎重派の方の当時の村長さんの方についていた。そういういきさつがあり当初は合併慎重論者であったことは事実である。

それが急激に変わった大きな原因という、先ほど570億の建設計画、その2年位前だと思うが、第2次都南村総合計画の策定審議委員ということで参画していたが、全体の額をどの位にしようかという議論をしていた。第1次総合計画は私の記憶によると260億、それより10年たったのだから350~360億、いやそれでは足りないんだと。その頃実は底流には盛岡との合併という論議があった。それでいや400億にするべきだ、あるいは420~430億にすべきだという議論がしきりにあったわけで、最終的には幻の総合計画になったわけだが、570億というここに提示してある金額、これはやはり合併した方がいいなど、これが決定打であった。

もう一つ、水の問題。前段申し上げたが、水源のない、特に旧都南村で西と東は簡易水道、地下水を使っていた。たしか59年だったか、2月に渇水事件を起こしている。水が高台にいかないと。そういったようなことが重なって、まあ決定打は財政の問題、それから水の問題がどうにもならないということで一気に進んだというのが実態である。

◎(滝沢村議員)　先ほど菅野議員さんから話があったが、私も境目に住んでおり、経済圏だけではなくて生活圈もほぼ一緒の部分が多いと思っていた。

先ほど武田議員さんもおっしゃったが、確かに滝沢が盛岡から恩恵を受けている部分が

多いのではないのかなと思う、お互いプラスマイナスはあるが。アンケートを見ても現状に満足しているという部分はあるが、端的に言えば滝沢は火葬場がない。一つの例だが、そういったところで行っている部分もある。そして私自身とすると合併云々、賛成反対ははっきり言ってまだわからない。実際の話として。ただ生活圏が同じという中、今後地方交付税も変わってくる、そして自主財源があるうちにはいいが、今度国の財政制度審議会でも留保財源比率の見直しも出てきている。そんな中だと、税収が減ってくると相当詰まってくる。

うちの村長もやはり、今現在のサービスは維持できないだろうということは我々に対しては言うが、では今後どういうふうに分減になっていくのかというのは住民には示されていない状況があると思う。メリット・デメリット論でいけば、お互いメリットもデメリットもあるわけで、何の主張もできるが、ただこうしてみると合併によるメリットというのはなかなか見えない部分が多いんだろうなと。デメリットは凄く見えるというように感じる。

さしあたり、今後法定協議会の設置の請願が出てくる。菅野議員もおっしゃるように、我々自身なかなか将来の財政見通しとか不透明な中で判断つきかねるという部分は相当あると思う。もちろん勉強不足と言われればそうかもしれないが、一般の住民の方はもっとそうだと思う。そんな中で法定協議会についての請願が確実に出てくる。そうなったときに我々の責任とするといわゆる新市町村建設計画をつくることになっている。その新市町村建設計画を住民の方々に見せて、我々がその妥当性も一緒に判断して、判断を仰ぐのが一番いいんじゃないかと。入り口の段階でとなると、はっきりいって合併がいいのか悪いのか判断しかねるという中でいけばある意味では責任放棄になるのかなと考えている。

あと議員さん方には直接関係ないが、盛岡市の方で市の情報化計画とかパブリックコメントをつくられている。ただ市の情報化計画等になると、今後そういった分野というのは防災とかいろんな面を含めこの地域に関わってくるから、どこに持っていったらいいかわからないが、ある意味では広域で情報化計画というのはつくられた方が、そういった問題がこういった広域行政に結びついてくるのかなと。ごみの問題なんかもそう。盛岡は非常にパブリックコメントがお好きで、やられているが、そういったところにも逆に滝沢なり矢巾なり、垣根があるといえがそれで終わりだが、取り入れてやればいいのかと思う。

◎（滝沢村議員） 合併は誰のためにやるのかということである。これは桑島市長のためでもないし、柳村村長のためでもないし、我々議員のためでもないし、やはり住民のために合併を考えるんだと。では現段階ではどうかというと、やはり住民への情報が少なすぎると思う。先ほどどなたかおっしゃったが、盛岡市が滝沢村にプロポーズする、例えばプロポーズする場合には、何かやはりいい話を持っていくべきだと思う。ある友人に会ったときに話したが、男の方が最近女性に断られる。だから男の方がもたもたしている。

これを当てはめてみると盛岡は男で滝沢の方が女性。私から言わせれば盛岡の方で合併すると、いわゆるプロポーズするときには俺と一緒にいければこういうメリットがあるという話をすべき。それが全然ない。ビジョンもない、いい話もない。そういったことで教育

文化の問題、住民福祉の問題、社会基盤問題いろんなものがあると思う。

我々もちょっと視点を変えるべきだと思うが、そのレベルを住民を軽視して言うわけではないが、やはり住民レベルまである程度下げて、そして彼らの立場に立った形で合併論を議論するべきだと思う。でない議員のレベル、行政のレベルだから常にどこに行っても同じ様な表現にしか私には聞こえない。

例えば村で3,000というアンケートをとった。たった1,000ちょっとしか回答がなかった。あとの2,000人は無回答。この原因はアンケートをもらった人からも聞いたが、今の社会情勢が非常に厳しい、特に民間は。アンケートに答えるよりも、きょうを生きなければいけない。そういうことをもろに私も言われた。合併も確かに大事だが、会社は今それどころじゃない。だから住民生活が今厳しい状況の中で彼らも非常に苦渋の判断をしなければならないということで、議員も住民の現状をきちっと認識した上で住民レベルに立った判断をしていかなければならない。

先ほど菅野議員がおっしゃったが、住民に情報をどんどん提供していくんだと、私も同感である。とにかく住民に情報を提供していかないといけない。最終的には我村も盛岡市も住民に判断を問うと思う。そのときに住民が正しく冷静に判断できるように十分な情報提供を我々も義務づけて認識していかなければならないと考えている。常に住民を意識した合併論を議論すべきであるというのが結論である。

◎高橋・市会長 当局の方から、今の想定される合併協議会の件で、法定なのか任意なのか答えることはあるか。

◎企画部長 合併協議会の関係だが、今直接請求で動いているのは法定の合併協議会である。法定の合併協議会だが、それでは、合併するために合併の協議会をつくれというよりは、合併するかしないかも含めて議論する法定協議会をつくれというような今の運動というように伺っている。

資料との関係だが、盛岡市の方でもIT戦略基本計画等もつくっているが、だんだん情報化が進んでいるなということで、盛岡市もその中でパブリックコメントとかホームページの充実も図っているので、その中でも広域行政関係をもう少し充実したいなというふうに思っている。

◎高橋・市会長 まだまだ議論は尽きないと思うが、この辺で締めさせてさせていただいて、発言できなかったことについては懇親会の方でいろいろお話をさせていただければと思う。

本日出された御意見については、従前同様市長の方にも報告をさせていただきたいと思う。

次回以降の予定につきましては正副議長会議の件もあるので、できればそれぞれの正副議長に一任をいただきたいと思うがよろしいか。(異議なし)

では以上をもって盛岡市議会・滝沢村議会との懇談会を終了する。